

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和2年11月10日・12月1日
------------------	-----	------------------

1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋
--------------------	------	--

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	13人	1人		15人

前回の改善計画

利用者の状態像を捉える為、利用者の言葉を注意深く聞き取り利用者の立場に立った見方や利用者の暮らす地域の理解をチームアプローチで情報を統合していき今後も「その人が望む生活」に向けた視点でアセスメント能力を身につけアセスメントの重要性の認識を深めていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

「その人」を理解するため、本人・家族の話を傾聴することで、円滑な関係性を築くことが出来た。チームメンバーとして相互に連携を取り合いニーズと支援が機能するようにアセスメントを行うことができた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	3人	12人			15人
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2人	13人			15人
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	2人	13人			15人
④ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2人	12人	1人		15人

できている点

- ・入所直後の利用者の健康状態や本人の思い等を書面だけではなくご本人の言葉や行動から読み取ることでその人の思いやニーズをより深く理解することができている。
- ・利用者へ寄り添い声かけ「その人の望む生活」を考慮し職員間で共有することができている。

できていない点

- ・口頭での伝達を受けさらに情報の記録を行う事、アセスメントや情報を読むことでの共有が確実な物となっていない。
- ・職員のアセスメント力が一定の水準を超えていないことで、課題の明確化やアセスメントの言語化が可能となっていない。

次回までの具体的な改善計画

効率良く情報が整理されるよう、ICFの視点をインテークの段階から取り入れ「その人」を理解してできる限り意向を引き出していくことで、課題の明確化・アセスメント力が一定の水準になるようにする。

|

|

|

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

2. 「～したい」の実現
(自己実現の尊重)

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・
上野山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中
嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	12人	2人		15人

前回の改善計画
利用者が望む生活に向けた視点やニーズを的確に把握出来る様、利用者・ご家族の意思を確認しながら、チーム全体で包括的な視点で目標設定することで、今後も目標に沿った関わりが持て、利用者の思いや利用者の立場になった考え方を定着させ、援助方針を共有していく。

前回の改善計画に対する取組み結果
ひもときシートの活動記録をとることで、利用者の様子やどのようなことが気になっているのか、不安を感じているか介護者の働きかけたことへの反応や行動・様子等を注意深く観察しチーム全体で利用者の思いを感じとる力を身につけることができた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
① 「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?	2人	11人	2人		15人
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	3人	10人	1人		15人
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	2人	11人	2人		15人
④ 実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2人	11人	2人		15人

できている点
・職員間でひもときシートを作成し利用者の課題解決を行い適切なケアに繋がられた。
・利用者自身を理解することの視点が持っている。

できていない点
・利用者の生活習慣や文化・価値観や自己決定の尊重ができていない。
・「生活支援」としての介護の視点が持っていないことや「その人らしさ」の理解ができていない。

次回までの具体的な改善計画
今の姿や生活歴だけでなく暮らしてきた姿として、価値観・生活習慣・地域性・時代性を把握し「その人らしさ」を理解することで、その人らしい生活を支援利用者の選択と責任による主体性を尊重した生活支援としての視点を持つていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

3. 日常生活の支援

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?		14人	1人		15人

前回の改善計画	<p>利用者をどのように理解するか、利用者の暮らし方を把握していくため、ICFの構成要素を活用することにより利用者の取り巻く環境の情報収集を行いながら、一人ひとりが自分の役割と捉えるよう、介護過程の展開への意識・関心を持つ体制作りを行い利用者の「思い」に気付く良好なコミュニケーションや信頼関係を構築する関わりや対応ができるように努めていく。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果	<p>介護過程の展開する為のプロセスを（PDCAサイクル）を繰り返す体制作りを行い個別性を重視する関わりや対応をおこなった。ユマニチュードやコミュニケーション能力の向上に努めた。</p>

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		10人	5人		15人
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	3人	12人			15人
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	2人	12人	1人		15人
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5人	9人	1人		15人
⑤ 共有された本人の気持ちや対象の変化に即時的に支援できていますか?	2人	12人	1人		15人

できている点	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFに基づくアセスメントの視点で利用者の生活の全体像を捉える理解に努めた。 ・ユマニチュードやコミュニケーションの向上に努め思いに寄り添い傾聴している。 ・本人の状況に合わせて過ごしやすいよう環境作りを行い職員間で話し合いを行い共有している。
--------	---

できていない点	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開における介護実践の管理・改善に向けた対応や多職種間での適切な情報のやり取りができる連携が身についていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	<p>利用者自身の大事な生活習慣や背景や要因でみえていない行動の理由を探り言葉にできない思いを引き出しパーソンセンタードケアやユマニチュードの理念に基づいてチームケアを行い個別性を重視し主体性を尊重した支援を行っていく。</p>
---------------	--

|

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?		8人	6人	1人	15人

前回の改善計画

地域のある資源を柔軟に多角的に収集し、ボランティア等の住民活動などインフォーマル活動や多様な社会資源を利用者本人が活用出来る様、マネジメントを行い今後もボランティアの要請をおこないながら、住み慣れた地域での自分らしい生活を実現出来るように展開していく。

前回の改善計画に対する取組み結果

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地域資源のボランティア等の社会資源を利用することに制限がありこれまでの日常と異なるものとなってしまったが、これまでと同様、利用者の生活のリズムを維持することに努め事業所内でのイベントや活動を楽しむことを行った。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		14人		1人	15人
② 本人と、家族・介護者や地域との関係が切れぬように支援していますか?	1人	12人	1人	1人	15人
③ 事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1人	12人	1人	1人	15人
④ 本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1人	8人	5人	1人	15人

できている点

- ・ 新型コロナウイルス渦の中でできる事として、事業所内でのイベントや活動を楽しむことができた。
- ・ 面会制限の中で家族が外にガラス越しの面会をしたり、訪問できない代わりに電話を使ったコミュニケーションを取ってきた。
- ・ 運営推進会議の定期的な開催が困難な状況ではあったが書面での会議の開催を行うことで、地域との情報を返信していただくことで、地域との繋がりが切らないように努めた。

できていない点

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地域資源やボランティア活動等の社会資源を利用することに制限があり地域交流が困難となった。

次回までの具体的な改善計画

コロナウイルス感染症予防による面会の制限や外出・イベントの自粛をしている現在、これからの支援に向けて新たな視点や方策を導きだせるよう、家族・職員・地域の担える役割を整理した上で安全対策を取りながら個別に検討していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	12人	1人	1人	15人

前回の改善計画
利用者・ご家族の複雑なニーズに対応していけるよう、多職種や地域資源を活用しながら今後も、環境の変化に敏感な利用者の不安を和らげながら、利用者の多様な価値観や暮らしを尊重し個々のニーズに対応したサービスの提供に努めていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
利用者・家族それぞれの個別のニーズに耳を傾け利用者自身を理解することを目指し柔軟なサービスの提供を多職種と連携し行った。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1人	11人	2人	1人	15人
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が適切に提供されていますか?	3人	11人		1人	15人
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	3人	10人	2人		15人
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	2人	13人			15人

できている点
・利用者の生活状況・行動や機能を観察し状態に応じ本人に沿った支援の提供に努めることができた。 ・利用者の思いや希望を叶えることを優先できている。 ・利用者のストレングス(本人の強み)に目を向けることができている。

できていない点
・利用者や家族の具体化されなかったニーズへの対応。 ・申し送りやカンファレンス等で利用者の情報を伝え共通理解しようとしているが、口頭での伝達だけではすべての情報が正確に全員に伝わることができていない。

次回までの具体的な改善計画
対応できないニーズに対して、具体化できていなかった為、実行できないニーズについては大切に受け止め何故実行できないかを話し合い支援の在り方や事業所の機能を見直して行くことで、ソフト面・ハード面において今後の支援の質を向上させていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

6. 連携・協働

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	10人	1人	1人	15人

前回の改善計画
地域作りに向けて、国の新オレンジプランに掲げる施策と連動して、認知症サポーター養成講座(キッズサポーター)を年間計画に取り入れ地域包括支援センターと協働し開催していくことで、事業所が地域住民との交流の場となるようホームページを活用し取り組みを発信していく。
前回の改善計画に対する取組み結果
地域作りに向けて他事業者や地域包括支援センターと連携を図り地域住民との交流の場となる認知症サポーター養成講座を開催することができ、今後の活動となる布石となることができ地域でサポートし合うシステムの構築に努めることができた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	3人	9人	2人	1人	15人
② 自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		10人	3人	2人	15人
③ 地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?		6人	4人	5人	15人
④ 登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		5人	3人	7人	15人

できている点
・認知症キッズサポーター養成講座を小学校で開催することができた。 ・運営推進会議録を回覧し周知することで地域の情報や活動内容をえることができた。

できていない点
・コロナ渦の中で地域との交流によるイベント・行事等の制限があった為、サービス機関の会議等も参加することができなかった。

次回までの具体的な改善計画
今後も地域包括支援センターと協働し地域との交流が図れるように又、施設での取り組みを知ってもらえるようにコロナ渦の中にも様々な工夫によって地域交流を作り出す事に努めていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

7. 運営

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	11人	1人		15人

前回の改善計画
これまでの苦情の検討内容を踏まえできるだけ具体的な課題を挙げながら解決に向けた働きかけや考え方を継続して取り組みマニュアルや手順内容等、定期的な更新と管理に努めていく。 事業所も地域の一員として、地域との交流を大切に社会参加を行っていき、水害等の災害時避難を支援できる事業所となれるよう、自治会と協働し地域の特性に合わせた柔軟できめ細やかな運営を目指していく。
前回の改善計画に対する取組み結果
苦情に対しては内容を明確にし解決に向けて話し合い迅速で誠実な対応を心がけた。 火災や地震・水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に着けることはできているが、コロナ渦の中で自治会と協働して取り組んでいくことはできなかった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	1人	10人	3人	1人	15人
② 利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2人	12人		1人	15人
③ 地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1人	8人	5人	1人	15人
④ 地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	2人	7人	6人	1人	15人

できている点
・利用者・家族からの苦情に対して、苦情シートを作成・回覧し職員間での情報の共有意見交換の検討を重ね当該事項に対し迅速に対応し早急な解決を行った。 ・新型コロナウイルス感染予防の為、運営推進会議が中止となったが書面による会議の開催を継続し書面での意見交換を行う事で、意見等を運営に反映することができた。

できていない点
・新型コロナウイルス渦の為、地域との協働した取り組みができず災害時避難を支援できる活動も行うことができなかった。

次回までの具体的な改善計画
・災害時に助け合える関係作りや避難場所を提供することで、地域の一員として相互関係を構築していく。 ・ご家族に意見の聞き取り調査を行うことで、問題に関する考え方を運営に反映していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?		11人	13人	1人	15人

前回の改善計画
「記録」を職員の重要な業務と位置づけ、業務内での記録の時間の確保を行い記録に関して理解を深めて行けるよう今後も事業所内研修を重ねていき記録の役割が職員の質の向上となるようキャリア形成に努めていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
「記録」の意義と目的を理解し専門職としての介護の仕事を可視化できるように記録することで情報の共有を行うことができた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	2人	10人	2人	1人	15人
② 資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2人	6人	5人	2人	15人
③ 地域連絡会に参加していますか		3人	9人	3人	15人
④ リスクマネジメントに取り組んでいますか	2人	11人	1人		15人

できている点
・日々の業務を振り返り、リスクマネジメントに繋げている。 ・自己研鑽・資格取得の促し内外の研修に参加し報告書を提出し他の職員の報告書を内覧することで、自己のキャリアアップ及びサービスの向上に努めている。

できていない点
・支援やサービスが適切であるのかを検証していく記録となっているのか検討することができていない。 ・自己研鑽においては、各自目標をもって行えているが、スキルアップの為の研修等は目標を明確にすることができていない。

次回までの具体的な改善計画
介護記録の種類や全体像が分かり支援・サービスが適切であるのかを検討していくことで今後に生かせる資料作りを行っていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年11月10日・12月1日

9. 人権・プライバシー

メンバー 金坂・藤田・長富・能美・古田・諏訪・河村・氏次・上野・山本(紀)・久原・山本(秀)・弘中・川本・中嶋

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	2人	12人	1人		15人

前回の改善計画

対人援助専門職であることを踏まえた倫理的行動が出来る様、利用者の立場に立ち自分自身の行動を常に振り返り見直すことができるようチーム全体で利用者の「尊厳」を損なわないことについての意識を高め自らの行動を律する重要性和職場環境の活性化が図れるよう努めていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

虐待チェックシートによる自己点検を定期的に行う事で、職員が日頃のケアや不適切なケアについての振り返りを行い事業所内研修を行うことで、理解を深めていくことができたが「尊厳」が実際の介護行為などで示されていないように感じる。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 身体拘束をしていない	11人	4人			15人
② 虐待は行われていない	8人	7人			15人
③ プライバシーが守られている	1人	14人			15人
④ 必要な方に成年後見制度を活用している	3人	9人	3人		15人
⑤ 適正な個人情報の管理ができている	2人	12人	1人		15人

できている点

- ・介護の振り返りを行い虐待や不適切なケアを行っていないか点検(虐待チェックシート)する機会を持つことができる。
- ・職員に対して虐待防止に関する研修を年回設け日々の支援の質を高めることに努めている。

できていない点

- ・自分の感情のコントロールするためのセルフマネジメントスキルの向上に努めることができていない。

次回までの具体的な改善計画

職員主体の考え方や実践に繋がる職場環境の要因を話し合い仕事の流れに利用者を組み込むのではなく利用者本位の支援を大切にする節度ある態度や丁寧に接することができる体制整備を行っていく。